

フードバンクかながわ 通信

「もったいない」を「分かち合い」「ありがとう」へ



特集

新型コロナウイルス感染症拡大防止で地域でおこっていること 6

寄稿

食べものと住まいがあって初めて夢を

学生

アルバイトで学費や生活費を準備する学生は、コロナ禍で収入が減ると、学費や家賃・水光熱費・スマホ代は減らせず食費を減らす。特にひとり暮らしの学生は地域とのつながりも薄く、支援のはざまに陥りやすく、食支援の必要性を感じたと横須賀市の福祉専門官北見万幸さんは言う。横須賀市はフードバンクかながわと協力し、他市に先がけて延べ4571食を支援した。

座間市で生活支援を行うNPO法人ワンエイドは「食べ物と住まいを得て初めて夢を見ることができると、居住支援と食支援（フードバンク）に力を入れる。コロナ禍では、住まいを失う人が多く、ワンエイドには4月5月に300件、通常の約2.5倍の相談があった。住むところが決まった後、食のニーズが出てくるという。

収入減や失業により困窮した人の家賃を補助する住宅確保給付金は、学生は親からの援助が期待できるため対象外だった。しかしコロナ感染拡大で、4月からアルバイト学生や子どもを預けられず働けなくなった人などに対象が拡大され、過去最高に急増した（神奈川新聞8/19）。フードバンクかながわは、地域の活動と連携し、食支援を行う。

応援してくれた大ぜいの「あなた」へお礼を言いたくて

フードバンクかながわは、多くの自治体が行うコロナ禍で孤立する学生支援に食品を提供した。学生から寄せられたたくさんの「ありがとう」の声を、寄付していただいたみなさんに届けたい。

相模原市の学生からの声（相模原市提供）

- ・めっちゃめっちゃ助かります。ほしいものがもらえただけで感謝です。ありがとうございました。
- ・貯金も底をつき、限界で、頼ることにしました。すぐ助かります。ありがとうございます。研究に集中できます。
- ・収入がなく、家賃と学費でお金のない期間でしたので、非常に助かりました。自分で作る料理が少しずつうまくなってきました。
- ・こんなにたくさんの食料を頂けるなんて・・・！ありがとうございました。

金沢区の学生からの声（金沢区社協提供）

- ・学生のみならず日本中が大変な時に食品の寄付をありがとうございます。金沢区内の企業や人に詳しくない自分が受け取るのももったいないと思うほどです。今回の取り組みに携わっていただいたみなさまも、どうぞ健康に気を付けてください。
- ・バイトがでぎず食事をやりくりするのが大変でしたが、これで当分、食費にこまらない生活を送ることができます。お米、インスタント食品は本当に助かりました。
- ・私は留学生です。日本で2年間の生活で初めて食の支援を受けました。本当にうれしいです。

青葉区の学生からの声（青葉区社協提供）

- ・ありがとうございました。冷蔵庫がないのでレトルト食品がとてもありがたかったです。
- ・初めて参加しました。ひとり暮らしなのでたくさんの食べ物を頂いて、本当にありがたかったです。
- ・大切に食べさせていただきます。次は自分が社会に貢献できるように頑張ります。

コロナとDV

NPO法人 DV対策センター

代表理事 穂志乃 愛莉

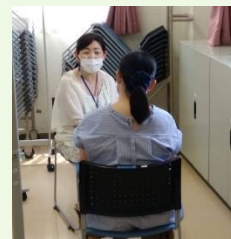
NPO法人DV対策センターは、2020年3月より主にDV・虐待被害者救済支援・フードパントリー支援を行っています。コロナ禍の中、DVに関する相談者が増加する一方、逃げ切れる方は減っています。緊急事態宣言と合わせて裁判所が一時期閉鎖となった影響で、未だに離婚調停が円滑に進んでおりません。いつ養育費や婚姻費用（別居中に夫から母子に支払われる生活費）をもらえるのか、目途がたたないという現状から、諦めている方がとても多いのです。

また、なんとか逃げてきた方も、調停が進まない影響で養育費・婚姻費用がもらえないという問題があり、さらに母子家庭においても元夫の収入が減ったからとして、養育費・婚姻費用が減らされた・振り込まれないなどの問題をかかえている方が多くいらっしゃいます。家庭内での経済的DVも深刻です。私たちは、そんな方々に向けて月に一度フードパントリーを開催しています。主な特徴としては、食品配布のみならず、専門のカウンセラーを3人以上配置し、ひとりずつの悩みをお伺いして、解決に向けてサポートしているという事にあります。

お母さんを待っている間、お子さん達にもプログラミング教室や工作などの楽しい企画を提供し、母子ともに有意義な一日になるようにしております。今後は女性と子どものための支援団体の輪を広げる活動もしていきたいと考えております。

4-6月の相談者 36件。

（青葉区）



DV支援センターは

1. DV・虐待被害の相談
2. 一時避難所の提供紹介
3. 当事者同士の交流会などの居場所
4. 母子家庭の子どもの教育支援
5. 母子家庭のための就労支援・食品支援を行う。今年3月に設立。

学生が学生を支援する活動も広がっている ～かながわ学生ボランティア連合の活動～

学生の
学生による
学生のための
サポート
プロジェクト

コロナウイルス感染拡大の影響で生活が苦しくなっている学生を対象に、食料を自宅に定期的に3か月間月に2回に届けるサポート活動に取り組む。第2弾として、9月から11月の間に食品宅配を希望する学生を募集する。8月31日現在希望者は1名。

お知らせ：フードバンクかながわ構成団体「パルシステム神奈川ゆめコープ」は9月より名称を「パルシステム神奈川」に変更されました。



お問い合わせ

公益社団 フードバンクかながわ info@fb-kanagawa.com

236 - 0051 横浜市金沢区富岡東2-4-45

発行責任：藤田 誠

TEL 045-349-5803

基本情報 2020年度の累計 (2020/8/31現在)

寄贈された食品 91.1トン
 企業等 181回 82.7トン
 フードドライブ 249回 8.4トン

提供した食品 981回 89.8トン
 行政・社協 260回 22.3トン
 地域のフードバンク 159回 26.8トン
 こども食堂等 382回 26.8トン
 自立支援施設 31回 16.9トン
 福祉・病院関係 149回 11.8トン
 調整 349kg

(2019年度実績 寄贈97トン・提供92トン)

合意書締結団体

寄贈締結団体 116団体
 提供締結団体 187団体
 行政・社協 48団体
 市民団体 139団体
 (子ども食堂・居場所・施設・福祉関係含む)

賛助会員寄付状況 設立以来の累計

団体会員 125団体 506口
 506万円
 個人会員 222人 932口
 932千円
 2020年寄付金 3,796,956円
 累計 15,409,269円

8月の状況 8/1~8/31 寄贈6.4トン 提供10.2トン

【寄贈食品】 6.4トン
 事業者 3.3トン 26回
 フードドライブ 3.1トン 52回

【提供食品】 10.2トン
 行政・社協 2.0トン 25団体 41回
 地域のフードバンク 2.5トン 15団体 29回
 こども食堂・居場所 3.6トン 41団体 64回
 施設関係 0.4トン 5団体 7回
 福祉病院関係 1.7トン 16団体 28回

7月は寄贈20トン 提供21トン

- ☆8月もコロナウイルスの影響による食品提供が大幅に増え、食品提供重量が10tを超えた。寄贈は6tなので大幅な提供超過となっている。経済活動の復調で企業からの寄贈が減っている。
- ☆フードドライブは、ユーコープ全79店舗、パルシステム配送、生活クラブデポ、イトーヨーカドー18店舗、JP労組、横浜銀行等で実施。
- ☆横浜市が毎週行う独り親240世帯への支援が3月まで続くこと、子ども食堂のフードパントリー活動等により、米の提供は3.3トンと昨年の2.2倍となっている。
- ☆学生支援は相模原市と青葉区社協が継続して実施している。

ひとり親支援・学生・パントリー等からのニーズに食品が追いついていません。棚はガラガラ。皆様ご協力をお願いします。

食品があふれる5月の棚



8月末の棚



メッセージ

事業推進委員



岩堀 義一さん
 (JA神奈川県中央会
 JA改革対策部部長)

非営利・協同の社会的連帯経済による「フードバンク検討会」第1回が開催されたのは2016年11月、生協の皆様からのお誘いで中央会も参加させていただき、視野の広い先進的な皆様の議論は大変勉強になりました。

設立準備会を経て2018年3月フードバンクかながわ設立から2年半、事業推進委員会では他の組織の熱心な取り組みに関心するばかりです。

JAも遅れ馳せながら、県下JA女性部でのフードドライブなどが始まっています。生協とJAの提携行事である、かながわC o o ネット福祉健康委員会で「よすかなかながや」の和田代表から心にひびくお話を伺ったのもきっかけになったのではと思います。食支援・フードロス削減は、喫緊の課題であると共に息の長い取り組みになります。今は新型コロナウイルスで思うに任せませんが、JAの次代を担う若い世代にぜひフードバンクの現場を見て学んでもらいたいと考えています。

拡がるフードパントリー

<32団体が実施中>

新型コロナ感染症拡大防止により、公的施設が使用禁止、密を避けることで、ほとんどの子ども食堂が開催中止となった。子どもたちへの食支援としてフードパントリー(食品分配)活動を**32団体が実施**。実施せずが8団体、うち検討中が5団体あった。

対象は**普段子ども食堂にきている子ども・大人、支援している母子世帯、ひとり暮らし世帯**などが多いが、近隣の子どもたちに公園で渡す、医療従事者支援などの例もあった。事前にセットしてお渡しする例が多いが、訪問して渡す団体も少数あった。

要望の多い食品は米、レトルトなどすぐに食べられる食品が人気。野菜などを地域から得ている団体もある。団体の所在地では金沢区が5団体、藤沢市が4団体、小田原市・保土ヶ谷区・泉区・磯子区、青葉区が2団体ずつ、相模原市、西区、港南区、鶴見区、横須賀市、二宮町、茅ヶ崎市、幸区などにもある。

食に困ったとき、歩いて行ける場所でのフードパントリーは有難い。パントリー拡大には一層の食品寄付や地域での循環も必要になる。また食支援をきっかけに福祉的の制度につなぐ視点も必要だ

7月に立ち上がった「フードシェア※いちがお」

保育園から見た食品を必要な世帯を支援する。パントリーとフードドライブを組み合わせ、区内のたすけあいネットワークの形成をめざす。(青葉区)



食品提供する地域食堂・56団体にアンケートを行い40団体から回答がありました。ご協力ありがとうございます。

【地域のお茶の間研究所 さろんどての例】

茅ヶ崎市の「さろんどて」はフードパントリー活動を昨年10月から始めた。今年3月には仕事が減った、無くなった、休校で給食がなく食費が家計を圧迫しているなど、市の担当課からの紹介やFacebookなどからの問合せが増えたという。

現在約40世帯がパントリーを利用。平均月4回開催し、基本的には事前にセットして取りに来てもらっている。困窮されている人を対象とし、

- ①ひとり親家庭で児童扶養手当を受給されている方
- ②福祉事務所の生活困窮者自立相談窓口から紹介された方
- ③問い合わせがあり必要と判断をした方

・例：現在は児童扶養手当を受けられないが、現在の収入が減ってしまっている方、子どもが18歳になり児扶手が打ち切りになり経済的に厳しい方、経済的DVを受けている方等。食品を提供するだけではなく、相談に乗り、自治体の福祉制度につないでいる。切羽詰まった方が多い。思春期カフェへの来所をきっかけに、経済的DVに陥っていることに気づき、

フードパントリー支援と市の窓口につないだ事例などがある。(早川仁美さんより聞き取り)

さろんどてへのひとり親世帯からの相談増加状況

